

## まちづくり懇談会 三郷

日時：平成 30 年 10 月 4 日（木）午後 7 時～8 時半

場所：旧佐々良木保育園

---

### 4. 「はたらく」「たべる」「くらす」の政策について

■企画部長 この地域の地域自治区を中心とした取り組みを紹介する。本来なら地域自治区から説明頂くと細かく説明して頂けるのだが、時間の関係で私からかいつまんで説明する。補足があれば会長からフォローしてもらおう。

三郷町の地域計画。地域計画とは、平成 28 年から 37 年の 10 カ年の総合計画に基づいて事業を展開しており、その地域版ということで各 13 地域に平成 27 年度に作って頂いて、まちづくりに取り組んで頂くというのが地域計画の概要。

三郷地域では、10 年先を見越した中で、キャッチフレーズで地域の将来像を表して頂いている。「自然と景観を守り人と人が支え合うまち～安心して住み続けられる三郷～」。それを実現する計画の柱を 3 つ定めている。1、地域の景観・歴史・伝統・文化を活かすまち。2、地域でともに支えあうまち。3、生き活きと住み続けたいまち。

事業を実施して頂くに当たり、市からまちづくり活動補助金を交付している。申請によって市で許可するもので、本年度、三郷地域は、5 事業で 128 万 6 千円交付している。この他に自治区の運営として、13 地区ほぼ均等割で、特に使用目的がないので役員報酬など何にでも使えるお金が 130 万円ほどある。合わせて 258 万 6 千円、これにより事業を実施して頂いている。

これから紹介するのはその主なものだ。

自然景観や農村景観の維持・再生事業。計画の柱 1。実施団体はチームトノバツタ。事業内容は殿畑地区一帯のツツジ公園化整備。散策道路の整備、ツツジの群生地保護育成、ツツジ祭りを実施している。

2 つ目。歴史・伝統・文化伝承事業。計画の柱 1。実施団体はまちづくり教育文化部会。機織り、藍染めの伝承講座。今年は 10 回開催している。機織り体験学習を今年度 2 回実施している。

防災・減災への取り組み。計画の柱 2。実施団体は三郷地域自治区と消防団三郷分団。事業内容は防災訓練。防災拠点備蓄倉庫の整備、これは過去 3 年かけて整備されてきた。他の地域にはない例だ。三郷地域はそういった面で防災意識が高い。消防団から棕実地区への AED を寄付。

地域福祉の拠点整備。計画の柱2。この保育園の跡地利用。6年間協議して頂き今年度再投資ということで市へ提案頂いた。利用計画は、高齢者の生活支援の拠点にしたい、子育て支援の拠点にしたいということで、それに向けて一般社団法人みさと愛の会を今年7月23日に設立された。事業化に向けて取り組んで頂いている。市も出来る限り要望に沿う形で検討を行っている。

移住定住対策の推進の1つ目。三郷地域は移住定住にかなり力を入れてみえる。計画の柱3。実施団体はまちづくり人口減少対策部会。実施内容は空き家リストの整備、交流事業、その内容は婚活、移住希望者との交流会など。

移住定住対策の推進の2つ目。移住定住対策の評価。今年度からまちづくり推進員を配置している。三郷町の定住促進委員会を昨年度から設置して、土地、空き家等の課題の研究調査をしてみえる。そういう成果の中で、移住した人がある。

地域の自然や景観を活かした観光振興と地域ブランドの発掘事業。計画の柱3。実施団体はまちづくり都市交流・産業振興部会。実施内容はみさとDE軽トラ市。こちらはすでに今年で6回、11月には7回で、かなり定着して人も増えている。

健康づくりの推進事業。計画の柱3。実施団体はまちづくり健康福祉・生活環境部会。実施内容はノルディックウォーキングの推進事業。コース整備。昨年度は佐々良木地区で2コース、今年度は野井地区で2コース整備するということで、ノルディックウォーキングの大会も実施されている。今年は12月9日に開催予定。多くの方に参加して頂きたい。

自然と景観を守り人と人が支え合うまちを目指して、坪井会長の下、まちづくりに取り組んで頂きたい。

#### ■市長 三郷町の状況と事業等について。

人口は若干右肩下がり。世帯も増えていたがこのところ少し横ばい。三郷町が2409人、-12.1%で、恵那市全体が-10.9%。大体平均的だ。生まれる子どもは、17年以降、14人、17人、16人と大体20人を下回る。生まれた後に戻ってきた子や移住してきた子を入れると、平成25年は20人生まれて4人プラスで24人。26年は13人生まれて18人が子どもの数。生まれる子が減っているが、入ってくる子を増やすのが一つの方法。29年はまだ1歳でも1つずつずれてくるので保育園や学校に入る前に帰って来いというのも手だ。そういうことを見ながら地域で取り組んでほしい。生まれた子どもの数をグラフにしたもので、分母が小さいので出たり入ったりしている。それから、平成30年と35年、今の1年生の子が6年生になったときの生徒数。三郷小学校は今114名で、35年になると113で1名減。ただこの先は減る可能性がある。西中学校は今370人いるが35年には403人と増える。

テクノパーク。三菱電機が三郷町で立地をして頂いた。私はテクノパークの担当だった

ので、皆様方にお世話になりありがとうございました。企業誘致はユニオン機工が野井に立地している。私はこれにも関わっており、元々はダイシン化学という所の使わなかった土地に移転して頂いたが、本社を移転して頂いている。今年学校の教育振興ということで100万円寄付して頂いた。子どもたちのために使ってほしいということだったので、三郷小学校、西中学校にそれぞれ50万円ずつ、何か備品を買ってほしいということで今は調整している。

恵那西工業団地。字境あたりに北山川が流れており、河川の改修に今年から入る。概ね1億6千万円ぐらいの工事を予定している。

住友理工は、車の中にゴム製品が使ってある。その製品のためのテストコースを設ける。事業。県の事業として66号線の多治見恵那の歩道の設置。歩道が切れているが、この先に反対側に歩道が付く。事業費は5100万円。

418号のカーブのところも今すでに工事がスタートしている。これも30年度で完了の予定。

災害復旧。中部用水。台風21号の倒木による被害。4月の豪雨で1カ所河川改修作業30万があり、21号関連で農業施設1130万、倒木除去で940万。

リニア発生土。亀ヶ沢の地域にリニアの建設発生土の埋め立て候補地ということで今着々と仕事が進んでいるはずだ。ただ、恵那市全体ではリニア関連の工事は遅れていて、まだスタートはしない。418号、武並方面からダンプが通る予定で、岡瀬沢方面からも66号線を通してダンプが上がってくる。また、もう一つの活用候補地が山岡にある関係で、418号を南に下りて山岡方面へダンプが走る計画になっている。ご了承頂きたい。

JR武並駅周辺の開発の話が今出ている。418号からクリスタルパーク恵那へ行く道の間の駅までの道、約15haは全体の画を描くということで、今年度市では基本計画の策定がスタートしている。西の玄関口ということで、一つは武並駅、もう一つは66号、国道ということになる。西側の三郷町、武並町あたりに人の集まれる仕組みがちょっとずつ出来ると期待している。

診療所。外来患者の数は若干減り気味。平成29年、2,800人程度。25年との比較で約88%。ぜひ利用頂きたい。

特徴的な取り組み。米麦採種ということで種を作っている。岐阜県内の美濃コシヒカリ96%がこの地で作られている。これは誇るべきことだと思う。

振興事務所長からの提案で三郷町の魅力を取りまとめた。らっせいみさと。集客抜群で県内でもトップクラスの道の駅。寿老の滝も大変良いところで利用が多い。他にも、写真として見ても大変すばらしい。中央アルプスの見える風景は、外から来た人はすごく感動されるということだ。改めて、こういった写真でも良いし、地元の良いところを探して活用していくことが大事だろうと思う。また、輝く人ということで、遠藤二千翔君は、僕も

何度も応援に行っているが、国体では2連覇で、北京の冬のオリンピックに出られるかという目標で頑張っている。また、稲垣さんにはお会いしたことはないが、こんなに素晴らしい方がいらっしゃることを知らなかったので、またどこかでご紹介頂きたい。

## 5. 意見交換

■司会 三郷地域自治区から三郷町の課題と思われる3つの事柄について提案してもらおう。

### ◎人口減少対策について

■まちづくり推進員 推進員として4月から三郷振興事務所にいる。仕事は人口減少対策として三郷町への移住定住の促進に取り組んでいる。空き家の持ち主に対して空き家バンクへの登録や、それが出来ない方には、民間の不動産屋さんに対して販売することを含めて、売買、借家などのお願いをしている。

三郷町の空き家の現状。三郷町では50軒ほど空き家がある。その他にも住んでいないが管理をしている空き家がずいぶんたくさんある。恵那市は移住定住推進室の恵那暮らしサポートセンターで空き家バンクを開設して、移住定住ということで空き家情報の提供を図っている。その中で三郷地域について見ると、これまでのところ空き家バンクへの登録が3件あった。その3件ともすでに契約が出来、うち1件は既に住んでおり、1件は掠奪の物件でこの間決まったし、1件は野井で昨日最終の引き渡しで来年以降住む。現在は1件も登録がない。ただし、民間の不動産には建物3件、土地2カ所出ている。

まちづくり推進員として、まだ6カ月ほどだが、空き家の所有者の相談で感じたことを述べる。

1、三郷町の空き家の所有者は、売れるどうか不安に感じている。なかなか売買、登録に至らない。その原因は、三郷の地価が安いということ。永田や長島では5万から10万だが三郷は1万から2万。その建物を持っていて、建物が古くなったので壊したら壊すのに200万、土地が300万、手続きに100万200万かかるので持ち出しになってしまうという考えの人がずいぶんいる。そんな中で、今年になってから6件ほど当たったが、その中で2件の方は、実はそうではなくて、本当に三郷に住みたいという人があって、そういう人は、お金を出してでも買いたいので、少し考えてくださいと説得して、今2件が空き家バンクの登録に向けて動いている。

ただ、空き家バンクへの登録は厳しい条件がある。それをクリアするためにお金を事前に使うと、このまま行くと売れるのかという、またそこに戻ってしまう。空き家バンクの登録をしなくても、空き家バンクで補助金のための登録ではなくて、登録外として紹介して頂く、顔を合わせてその人がお金を出しても買っても良いという話を聞けば登録に入れる、そういう仕組みが出来てくるのではないかと思う。それを検討頂きたい。

2、農振農用地の規定。三郷ではなかなか宅地がない。逆に言うと、三郷の人が過去に一生懸命農地をつくった。道路に面したところでも農地がいっぱいある。実は圃場整備がかなり三郷では進んでいて、現在残っているのは圃場整備が出来なかったところであるにも係わらず、いまだに規制がかかっている。出来るだけ容易に宅地化するには、今残っているのは住宅が連たんした間にある農地が結構あるので、そういったものについて農振の考え方を改めて頂ければ、そこを使えば、すでに道路も水道もあり電気もすぐ入るので、そういったところを活用することで少しでも定住に繋がる考え方が出来ると思う。

3、地籍。時間のかかることだが、空き家バンクを見ると、山岡、明智、串原、あの辺りは、岩村もそうだが、地籍がすべて終わっている。そういったところは、あとは自分の建物の問題だけになるので、空き家バンクに簡単に登録出来る。ところが、旧恵那地域の地籍がまだ終わってないところは、自分の土地の境界を自分で確定する。これだけで既に100万近いお金がかかるので、そういう取り組みがなかなか出来ない。そういったことで恵那市として、地籍の効果というか、それを人口の定住施策に結びつける形で人が住めるエリアを優先してほしい。

この3つを希望する。

#### ◎高齢者の生活支援について

■まちづくり市民委員会三学地域部会長 高齢者の生活支援に関連してみさと愛の会の現状とお願いをする。

7月に法人化が出来たところで、実際の活動は7年前から行っている。初代会長は宮地政臣で、2代目は坪井で、市長も御存じだと思う。2人とも市の行政には明るい。色々な折衝も、我々素人が分からないことを率先して行って助かっているのもこれからお願いしたいと思っている。

みさと愛の会は3つの大きな事業をやっている。

1つは高齢者の日常生活支援。高齢独居、70歳以上の高齢者の夫婦だけの家と言っても、7年前に野井だけでも60軒あり何とかしないといけないと立ち上げた組織だ。簡単な日常生活支援をするが、主に依頼が多いのは草刈りと庭の剪定、送迎、送迎は自宅からバス停までとか診療所まで急遽行くこともある。草刈りは高齢のおばあさんだけの家で、お盆が近づいておじいさんを迎えるのに、そうましい庭では、恥ずかしいので草を刈ってほしいとか、ついでに剪定も頼まれる。原則2人以上、作業30分600円で行っている。実際に2人で行っても1時間とか、広い家では2時間以上かかるので、だんだん3、4人で行くようになっていく。剪定も同じだ。送迎は主に自宅とバス停、三郷診療所。以前はお寺やお墓へ行くというのがあったが最近ではなくなった。

2つ目は、いきいき教室。6年目になる。当初週1回だったのが週2回、しかも30名以

上の登録があるので、その送迎もメンバーが自家用車を出して行っている。1人が2回往復してなんとか間に合わせている。それでもだんだん人が多すぎて、私も5人乗りの車だったが8人乗りの中古に替えて対応している。

もう一つは学童保育で、これも当初から行っているので7年目になる。旧事務所が野井の農協、今、武並神社の下にある、公民館と併設になっているところで行っている。学童保育は大井長島と比べると安い料金で行っている。実際には子どもを預けたくても月8千円出すのがえらくて無理してじいさんばあさんが面倒をみている家とか、お父さんお母さんが帰ってくるまでは放ったらかしの小中学生がある。何とか出来ると良いと思っている。

今はその3本柱で行っているが、まちづくりにとって大変貴重な活動だと自負している。事務所の維持費、ボランティア作業、作業道具はまちづくりのお金を50万円2回頂いたのでたくさん買うことが出来て間に合っているが、人間が追い付かない。会の人から作業料で頂くのは600円だが、2人で行くので1人300円だが、少し色をつけて400円にしているので、若干無理をしながら払っている。その辺の支援もよろしくお願ひしたい。

佐々良木保育園の跡をみさと愛の会で市から譲渡を受けてゆくゆくは秋のお手伝い事業の佐々良木椋実地区の拠点になるように話が進むと良いと思っている。そこは市議員の鵜飼さんからも話があったし、順調に進んでいると聞いたので、よろしくお願ひしたい。

#### ◎地域の活力づくりについて

■まちづくり委員会事務局長 30年度事務局長をやっている。それとは別に、三郷町体育協会の理事長もやっている。今月21日にふれあいスポーツ大会という2年に1回の行事がある。この行事は自治区の方々、自治会の方々によって今年も開催出来ることになり、大変嬉しく思っている。というのは、この三郷地域で唯一全町民を対象としたイベントだからだ。そういうところで皆さんが集まって絆が出来て地域の活性化になればと願っている。

先ほどからの報告の中でまちづくり委員会の各部のことも少し紹介があったが、改めて話したい。

三郷町は人口減少対策部会、都市交流部会、健康福祉部会、教育文化部会、市民三学地域部会の5部会がある。それぞれ活発に活動されている。その中で特に光る行事として、毎年春と秋2回行う軽トラ市、今年6月で6回目になる。大変好評だ。ぜひこれをもっと継続して地域の活性化につなげていければすごく三郷町に人口も増えて色々な面でプラスになると思う。ただ、6月に開催したときに、多くの出店者がいて出店料を頂くが、運営予算が少なくなっているので出店料を値上げした。色々な意見があった。でも納得して頂いて、今度の秋、11月25日に7回目を開催するが、春と同じ出店料で開催する。多くの予算がここで使われる。広告代が主な出費になる。多くの人に呼びかけて楽しんで頂きた

いということで広告を出す。その資源は恵那市から頂いている補助金に頼っている。それを頼ってばかりいると、ひょっとしたらなくなるのではないかと危惧している。それで出店料を上げた。出店料を今後継続してもっと上げないといけないのかという心配もある。まちづくり委員会の予算として補助金を頂いているが、これが今後どうなるのか聞きたい。

三郷町は中途半端な田舎だと思う。ど田舎ではなく街の中ではない。ほどよい田舎、ほどよい町だ。そういうところがもっと発展で出来れば良いと思う。ぜひ継続的な支援をお願いしたい。

■市長 空き家バンクの件。ハードルが高いので掲載の方法を、レベルを変えて出来ないかということ。早速検討する。少しでも多くの方の目に触れることが大事だと思う。

■副市長 農振農用地の件。この話は三郷だけでなく多くの地域から出ている。農振農用地だと非常に厳しいという話をしてきた。市としては農振農用地でも、2種とか3種は出来るだけ解除出来るように考えている。これはまもなく市全体としてどう解除するか模索して、議会にかけて、またお話する。もう少し待ってほしい。良い方向に持っていけると思う。家と家の間の農地などは解除出来るように検討する。

地籍は、なかなか厳しい。恵那市だけではなく、岐阜県は、全国的に見てかなり遅れている。岐阜県が遅れているのは、梶原県政の後に財政で非常に困った時期があり、地籍は補助金を取りに行かなかった時期があった。そのために岐阜県全体が地籍の事業が遅れている。しかしその中でも岩村や山岡は町だったので早く行ってしまった。今、恵那市では、補助金を、岐阜県の枠の中でも非常に取りに行っていて、一番多いのは高山で、次が恵那市だ。それは恵那市が国の地籍の担当の部署へ人を送り込んで地籍の補助金をより獲得して行っているが、どこも全部ということにはならない。一生懸命補助金の確保に頑張っていく。

■振興事務所長 旧佐々良木保育園。愛の会が7月23日に法人化され、譲渡についても条件付きながら承認して頂いたことはコミュニティだより等でお知らせしている。現在、企業指導型保育事業の決定が条件ということだが、10月末頃には交付決定が知らされてくると申請者から聞いている。現在祈るような気持ちで待っている。

■企画部長 まちづくり補助金について。以前から坪井会長からもそのような話を聞いている。元になっている話として、まちづくり補助金は、基金と言ってお金を積んでそれを運用して、その利益で各地域への財源としている。補助金と交付金で年間5千万円ぐらいを全体として各地域へ出している。地域の自主自立を目指す中で、地域のイベント的なも

のは極力自主財源確保に努めて頂いて、補助金は徐々に削減していく方向だ。それに沿って会長もそういう形で行かなければということで今年出店料を上げたということは聞いている。補助金が今後どうなっていくかは、今のところ、イベントについての方針は変わらないが、どこかでぶつっと切ってしまうということは考えていない。軽トラ市には、私も何回かお邪魔して、開催規模が大きくなってきてこれは恵那市全体のイベント、さらには市外から来て頂くようなイベントに育ちつつあるので、引き続き支援をさせて頂きたい。

■司会 時間がないので質疑は1、2人とする。

■市民1 5月30日に瑞浪市で総合計画について説明があった。恵那市のように当局側がこんなに時間を使って説明することはない。説明会なら説明会としてほしい。私はあちこち、県議会も含めて100回は傍聴している。色々と言おうと思ったが時間がない。東濃5市のここ50年間で、3年前に無駄な税金が使われているということで住民監査請求をやった。これは朝日、中日、岐阜新聞に出て、議会事務局の隣の部屋で記者会見をした。それで無駄な金が使われることを言うと時間がないので。それから、水のないところには人は住めない。水だけは絶対に必要だ。そういう意味で、野井の人は御存じないと思うが、野井は昭和42年頃に簡易水道が出来て、佐々良木にはなかったので、私が昭和の終わりから平成の初めにかけて、ITバブルになった。酸性雨が降り、酸性だと化合しやすい。水道を引く元をつくった。それで明日香苑もらっせいも出来た。それと、防災関係も出来た。過去の市会議員は何もそういうことをやっていない。それだけは私ははっきり言いたい。

そして、恵那市だけだが、仕事をしない市会議員ほど議長、副議長をやる。19日に武並であるので、今まで欠席したことがないので、資料を持って行って相当やるが。これからも日本全体を良くするために色々なことをやっていく。

■司会 これで終わる。もし意見があれば、広報直通便のはがきも利用してほしい。

## 6. 市長お礼のあいさつ

■市長 本日は足元の悪い中ありがとうございました。もし言い足りないことがあれば振興事務所に言って頂いても良い。より良い恵那市づくりに努める。

■地域協議会副会長 皆様ありがとうございました。これで終了する。

[ 閉 会 ]